

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

誰をかも知る人にせむ高砂の 松も昔の友ならなくに

藤原 興風  
ふじわらの おきかぜ

〈歌意〉

「私はいつたい誰を友人にしようか、年老いてこの世にいるのは高砂の松くらいだが、それさえ昔からの友人ではないのに。」

〔出典〕『古今集』(雑・九〇九番)

〈紀友則〉

生没年未詳。官位は低いが歌人として有名である。

〈よみ〉

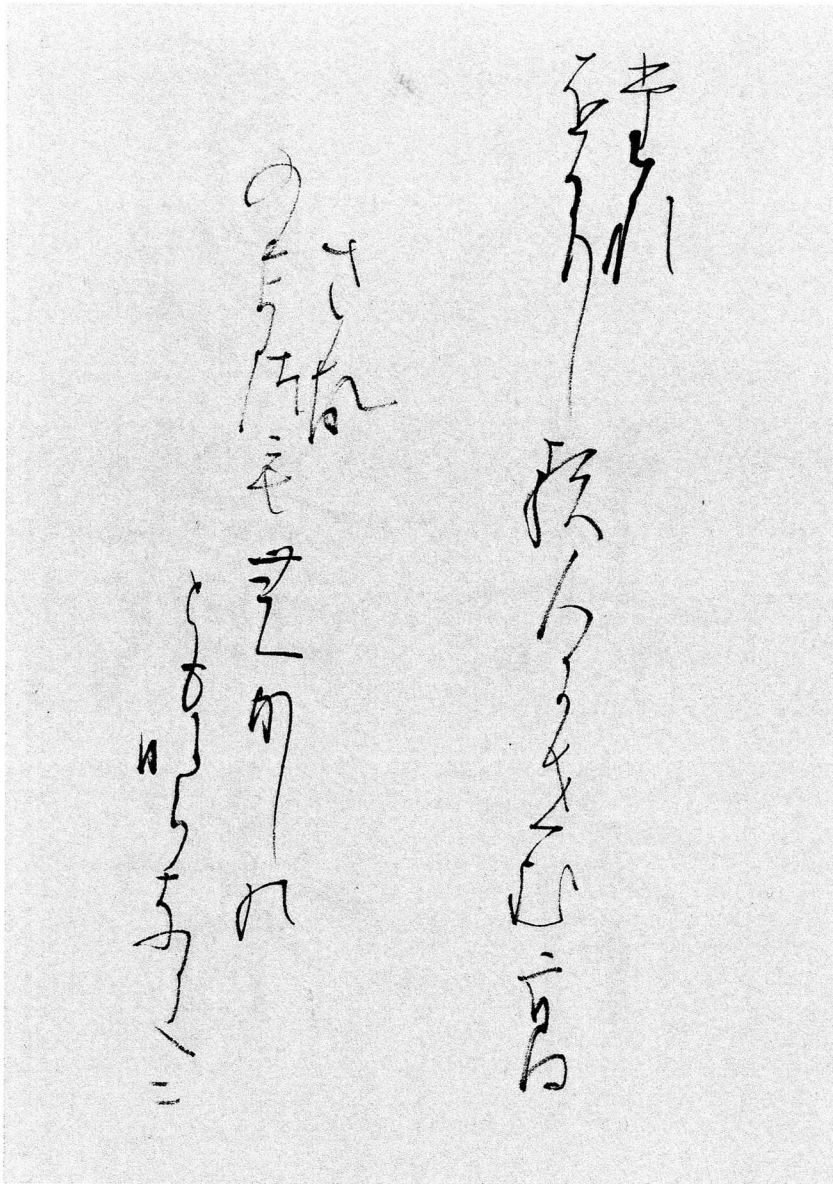
堂れ

を可無し類人尔世む高

さ故

のま徒毛無かし能

とも那ら奈く二



中村素堂先生の書

書間欽堂先生提供